

開催報告

産学協働イノベーション人材育成シンポジウム2017

オープンイノベーションに向けた＜新しいインターンシップ＞のかたち -求められる研究人材像とその育成-

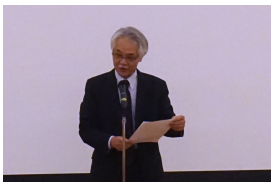
2017年10月17日（火）14:30～18:00 東京大学弥生講堂一条ホール
主催：一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会 後援：経済産業省、文部科学省

本協議会主催のシンポジウム「オープンイノベーションに向けた＜新しいインターンシップ＞のかたち-求められる研究人材像とその育成-」には、企業関係者47名、大学関係者36名、官庁・団体から13名、その他6名、総勢102名の皆さまにご参加いただきました。本事業が、研究インターンシップの普及を通して、多様な場で活躍できる人材育成と共にイノベーション創出を志向する取り組みであることを、参加者の皆様に深くご理解いただきました。また、イノベーション創出のために重要な視点、大学・産業界の組織的課題を共有し、課題解決の施策について議論いたしました。

01. 開会のご挨拶

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会

代表理事 **北野正雄**
(京都大学理事・副学長)



本事業の中心である研究インターンシップは、学生がキャリアという概念を築いていくための教育プログラムを、産学協働で実施するという新しい試みです。大学・企業双方のご尽力により成功事例を重ね、学生、企業、大学でまさにWin³の関係が醸成されてきております。これをさらに広げ、質的に深めていくために、このような場を活用して本事業の意義を再確認し、より多くの方々に伝えていく必要があると考えております。引き続き、本事業に対するさらなるご理解・ご協力をお願いいたします。

02. ご来賓挨拶

経済産業省大臣官房審議官（産業技術環境局担当）

佐藤文一



佐藤審議官は、4年前の本事業設立時に経産省産業技術環境局大学連携推進課長を務めておられました。本事業を立ち上げられた当初の目的について言及いただき、また当時本事業の目標として設定した各数値目標の達成に、現在近づいていること、また、本事業のさらなる発展を通して、大学院生の研究インターンシップへの参加が「当たり前」となり、産学連携での人材育成と、人材を挟むことでの産学連携がより一層加速することについて期待と激励のお言葉をいただきました。

※シンポジウム内容抜粋（敬称略）

文部科学省高等教育局専門教育課長

松永賢誕



理工系人材の流動化・適材適所での活躍を課題に、改めて産学官が一体となり、戦略的に取り組むことが必要とされています。本事業の中心である研究インターンシップについて、教育的効果の高さ、産学共同研究につながる可能性のみならず、教育における産学での認識のズレを払拭し産学連携強化に貢献する有益な取り組みであることをご指摘いただくとともに、この先駆的取り組みを実施する協議会事業へのさらなるご協力を、皆さまに呼びかけてくださいました。

03. 基調講演

世界の経営学からみたイノベーション創出への視座

早稲田大学ビジネススクール准教授

入山章栄



イノベーション創出の第一歩として欠かせない知の探索をどうすれば促せるか、活かせるかを、経営学の視点からお話いただきました。重要な視点として、組織において個人が「失敗」を恐れない環境をどのように作るかについて、またダイバーシティ推進とイノベーション創出の関係や、創造的なアイデアを生み出し実現していくために必要な人脈について、ユーモアを交えつつ解説をいただきました。さらに、産学間の人と知の交流を目的とした本事業が、これからイノベーションを生み出す人材として求められる「H型人材」の育成に寄与する可能性についても言及いただきました。

04. 事業報告・学生発表

■協議会事業責任者 **藤森義弘**
■東北大学大学院 **中沢駿仁**
■筑波大学大学院 **松本尚人**

協議会事業責任者の藤森より、協議会の概要や成果と共に、協議会の目指すインターンシップや、中長期ビジョンについてのご説明をいたしました。

また、学生のインターンシップ経験報告として、東北大学大学院工学研究科博士後期課程2年の中沢様、筑波大学大学院数理工学物質科学研究科博士後期課程3年の松本様より、それぞれダイキン工業、日本ゼオンでのインターンシップを通して得た気づきや反省点、大学に戻ってからの変化点、これからどう活躍していきたいかについてのお話をいただきました。共通点として異分野の出会いが触媒となり、新たな価値を生み出すことを、具体事例を挙げてご説明いただきました。



05. パネル討論 クリエイティブな能力向上はいかに実現できるか



モデレーター
パネリスト

永山 晋（法政大学経営学部専任講師）

北野正雄（京都大学理事・副学長）

小林傳司（大阪大学理事・副学長）

若山正人（九州大学理事・副学長）

稲塚 徹（ダイキン工業株式会社常務専任役員）

菅谷博之（東レ株式会社先端材料研究所リサーチフェロー）

吉田智一（シスメックス株式会社執行役員・中央研究所長）

クリエイティビティ・組織のイノベーションをテーマにご研究をされている永山先生をモデレーターに、優秀な理系人材をいかに育て活用するかということを議論いたしました。研究インターンシップの組織戦略的位置付けや課題、研究インターンシップを活用されている会員企業・大学それぞれのお考えをうかがいました。実際の研究インターンシップが、社会を引っ張っていく人材の育成、企業内の人材育成、そして「知の探索」のための活動としてなど、さまざまに活用できることが示されました。また、企業・大学それぞれの組織的な課題や、学生にとっても企業にとっても価値のあるインターンシップとなるようなテーマ設定のしかた・マッチングの工夫などについて、ご意見を共有いたしました。

06. 閉会のご挨拶

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会

副代表理事 **稲塚 徹**
(ダイキン工業株式会社常務専任役員)



基調講演・パネル討論等を通して、新しい/異質の知識との結合がイノベーションの創出に必要であることを、改めて認識いたしました。本協議会では、しっかりした知をもつ博士の学生と共に仕事ができる、他には無い、チャンスにあふれた枠組みを用意しています。すでにご入会いただいている企業の皆さま、大学の先生方と共に、協議会活動を盛り上げ、そしてイノベーション人材を次々と生み出せるよう、努めて参ります。協議会趣旨にご賛同いただける企業様のご参画を心よりお待ちしております。

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会（C-ENGINE）

〒606-8302 京都市左京区吉田牛ノ宮町4 日本イタリア会館305 TEL 075-746-6872 Email contact@c-engine.org URL <http://www.c-engine.org/>